沿 革

吹田市バドミントン連盟は１９５９年（昭和３４年）に初代理事長松田良雄（現顧問）を中心に発足しました。当時サークルとして活動していた「黒いアヒルの子」、「国鉄」、「住友金属」、「消防署」などが地域に呼びかけ開催した大会は、参加者 60 名程度の手作りのものでした。まだ、市民体育館がない時代で、中学校の体育館にコートを作ることからやらなければならない状況でした。

１９７２年（昭和４７年）の片山体育館の開館とともにバドミントン教室を開催するようになりました。これを契機にバドミントンを楽しむ人たちが増加し、１９８０年（昭和５５年）北千里市民体育館、１９８６年（昭和６１年）山田市民体育館、１９８９年（平成元年）南吹田市民体育館、１９９７年（平成９年）目俵市民体育館がそれぞれ開館、それに伴って目俵体育館を除く４館においてバドミントン教室が開催され、それは現在も継続しています。

今では吹田市民大会として、春季市長杯（団体戦）や秋季市長杯（個人戦）、連盟杯（個人戦）などがあり、多数のバドミントン愛好者が参加する大会となっています。初期はトーナメント形式で試合が行われていましたが、1 回戦負けですぐに帰ることに不満を持つ声もあり、敗者戦の実施からさらにリーグ戦へと移行することになりました。その際に試合当日に組み合わせ抽選するなど、試合を楽しく面白くすることにも取り組みました。現在は抽選に時間がかかり試合時間が少なくなるため、事前抽選に変更しています。参加資格についても吹田市在住または在勤、教室受講者、指導員、連盟役員などに限定されており、当初は大学の体育会バドミントンクラブの参加は認められていませんでした。その後、参加者のマンネリ化を防ぐためにも参加資格を大幅に緩和し、大学の体育会はもちろん、吹田市在住在勤以外でも登録することで参加できるようにしました。中学生との交流をはかるために中学生の市長杯大会には連盟役員も運営に立ち会うようになり、中学生の市長杯で３位以内に入賞した選手を一般の連盟杯大会に招待するようにもなりました。

このような変遷を経て吹田市のバドミントンが活況を呈しているのです。最近は社会人のクラブやレディースのクラブ、小・中学校、高等学校の部活動、ジュニアのクラブなど特に小・中学生のジュニアのクラブ（コンドルや T&A、TNBC など）が活発に活動しており、近畿大会や全国大会に出場するような選手も育ってきています。

今後は、競技部門に活躍する人、また楽しくバドミントンをする人や初心者が気軽に参加できるような大会運営、レディースの大会の実施、ジュニアで全国に通用するような選手の育成も目指して行きたいと思います。

特に、今年度から大会の申込み方法もメールやＦＡＸ・郵送と申込み易い方法になりましたし、種目も１部から部３部および初心者と枠を広げ多くの参加者を歓迎できる体制を整えました。体育館‘（５館）はそれぞれに耐震工事や地震の被害による修理と、使用不可の館が再三発生し長期間使用できない状態が続いていましたが、それも徐々に何とか使用できる運びになりました。ただ北千里体育館だけは少し時間がかかるようです。体育協会と相談して大会日程を調整することにより、他市からは羨ましがられるほどの体育館数を有効活用していきたいと考えています。令和を機にこれからもバドミントン愛好者の窓口として喜ばれる運営を行い、連盟の更なる発展繁栄を目指して参る所存です。